

警鐘レポート 1 ペーシングワイヤー抜去に伴う心損傷による死亡

事例2

< 事例概要 >

・僧帽弁置換術・三尖弁形成術を施行。右室横隔膜面にペーシングワイヤーを留置。術後約1週間でワイヤーを抜去。

・抜去5分後、左肩痛が出現、血圧50mmHg台で補液を開始。心エコーで心尖部に最大径8mm程度の心嚢液、CTで右房側面と心尖部に心嚢液貯留を認め、再度心エコーを施行するが明らかな変化は認めなかった。次第に血圧が低下、心房細動となり、再開胸止血術を施行したところ、右室横隔膜面より噴出性の出血を認め、抜去から2日後に死亡。

・死因は、心損傷による心タンポナーデおよび胸腔内出血に伴う出血性ショック。死亡時画像診断（Ai）無、解剖有。